



池上地区 まちづくりガイドライン

【概要版】

H30.11 池上地区まちづくり協議会

1. まちづくりガイドラインの目的・ねらい

- ・これまでの協議会でのご意見や内容の見える化を図り、追加・更新していきます。
- ・将来のまちづくりに必要な要素を共有するためのツールとして活用します。

2. まちづくりガイドライン作成における協議会活動の歩み

●平成26年度

第1回 「強み・弱みを活かしたまちづくりを考えよう」
4/9

第2回 「まちあるき
ルートマップを
考えてみよう」
8/18



第3回 「呑川周辺のまち
あるき」
11/8

第4回 「強み・弱みを活かしたまちづくりを考えよう」
12/8

●平成27年度

第1回 「本門寺周辺及び商店街・町周辺のまちあるきルート作成」
6/20

第2回 「本門寺周辺のまちあるき」
9/19



第3回 「本門寺周辺のまちあるきまとめ」
11/2

第4回 「池上駅・商店街周辺のまちあるき」
12/5

第5回 「商店街及び駅周辺のまちあるきまとめ」
2/19

●平成28年度

第4回 「観光にぎわいのまちづくりについて」
12/6



第5回 「池上地区に似合うまちのしつらえについて」
3/28

●平成29年度

第1回 「まちの“まとまりイメージ”について」
6/20



第2回 「ガイドラインのエリア検討」
8/8

第3回 「まちの拠点・軸・ソフトについて」
11/15

●平成30年度

第1回 「前年度の振り返りと今年度の活動について」
6/20



第2・3回 「-THE- 座まちづくりワークショップ」
9/1

社寺ヒアリング

9/20 「お寺と地域のかかわりについて」「池上の将来イメージについて」

第4回 「池上地区まちづくりガイドラインの内容確認」
10/30

3. 池上の資源と課題・まちのしつらえ -ワークショップを通じてわかったこと-

まち歩きを通じてわかった 資源

1. 本門寺を中心に寺町文化が集積
2. 池上ならではの店が点在
3. お寺と自然の織り成す風景に癒される
4. ほんとは秘密にしたい自然がいっぱい
5. 電車とバスで多方面にアクセス可能

まち歩きを通じてわかった 課題

1. 自動車の交通や狭い道幅でまちが歩きにくい
2. まちなかに人の憩える、交流できる場所が少ない
3. 寺町をいかした観光地としてまちの整備や情報発信ができていない
4. 寺町の景観が損なわれている
5. 自然環境のお手入れが出来ていない

まち歩きを通じてわかった まちのしつらえ

1. 商店街(全般)について
商店街ごとに特徴をもった、緑の多い憩いの場に
2. 商店街(旧参道・新参道)
寺町情緒を感じる、本門寺へと繋がる通りに
3. 商店街(駅周辺)
明るい気持ちになる、賑わいあふれる商店街に
4. 池上本通り 歴史に親しみながら憩える通りに
5. 本門寺周辺 寺町情緒あふれる観光名所に
6. 呑川沿い 自然の心地よさを感じられる通りに
7. 池上駅
たくさんの観光客を迎え入れるまちの玄関口に
8. 住宅地 幅広い世代が交流し、憩えるまちに



4. まちの特性 -ワークショップ・ヒアリングの整理-

これまで行ってきたワークショップとヒアリング調査や来街者へのアンケートを通じ、池上の守っていききたい大切なことと改善していきたいことを次のように整理しました。

まちの大切なこと

1. 池上本門寺を中心に歴史が様々な形で重なっていること
2. みどりが多く、四季を彩る草花に出会えること
3. 池上ならではの店舗がまちに点在していること
4. 切り取りたくなる風景が点在していること
5. 交通の便がよく駅から多方面へのアクセスが可能なこと



まちの改善したいこと

1. 歩行者と車両が混在し歩きにくいこと
2. 通りごとに特徴がないこと
3. まちの情報の発信力が低いこと
4. 点在する資源同士につながりがなく観光がしにくいこと
5. 街中で時を過ごせる空間が不足していること
6. 歴史や緑など、まちのしつらえが特性を活かせていないこと





5. まちづくりのコンセプトと目標・方針

【5-1 まちづくりのコンセプト】

い・け・が・み スタイル **ひとととき** を彩る **まち**

【5-2 まちづくりの目標】

情緒と四季が感じられる
ゾーン毎の特徴づけ

池上ならではの日常の提案
(まちなかでの過ごし方・営み)

池上にこだわった
まちのブランディング

【5-3 まちづくりの方針】

方針 1 池上らしさが魅力的に表出したにぎわい空間を形成する

- 1-1 1階部分には店舗や飲食店などのにぎわい施設の配置をすすめる。
- 1-2 お店の個性が通りに滲み出すような店構えをつくる。
- 1-3 共通のデザインで通りに一体感を持たせる。

方針 2 歩いて楽しい遊歩道を形成し、
来街者が安全で安心して池上の地域資源を巡ることができる

- 2-1 まちあるきの途中で休憩できる空間を確保する。
- 2-2 街路樹やハンギングバスケットなどを活かして、みどりや花が連続する快適な歩行者空間を創出する。

方針 3 歴史ある池上にふさわしい建物と
五感を刺激するまちなみで生活者・来街者をもてなす

- 3-1 寺町の建物の外観は、和風のしつらえとし、本門寺と縁辺部の連続性を生み出す。
- 3-2 本門寺のライトアップを地域に拡張し、象徴的で美しい夜の風景を演出する。
- 3-3 木のぬくもり・寺や風鈴などの音・樹や花の香り・池上の逸品の味などを発信する。

方針 4 アクティブかつ快適で、多様な暮らし方を支えるしくみをつくる

- 4-1 住む人、訪れる人、働く人がそれぞれのライフスタイルに合わせて楽しみ、学び、体験できる取り組みを充実させる。
- 4-2 駅周辺部と地域資源を結ぶコミュニティサイクルのネットワーク化を実現する。

方針 5 季節や時間、ライフスタイルに応じて、
いつ訪れても楽しむことができるイベントや行事を行う

- 5-1 季節の花やお寺など地域資源が主役のイベントを開催する。
- 5-2 住民同士の活動が生き生きと展開される機会をつくる。

方針 6 まちの分かりやすさを高め、
どこにいても本門寺の位置を認識できるようにする

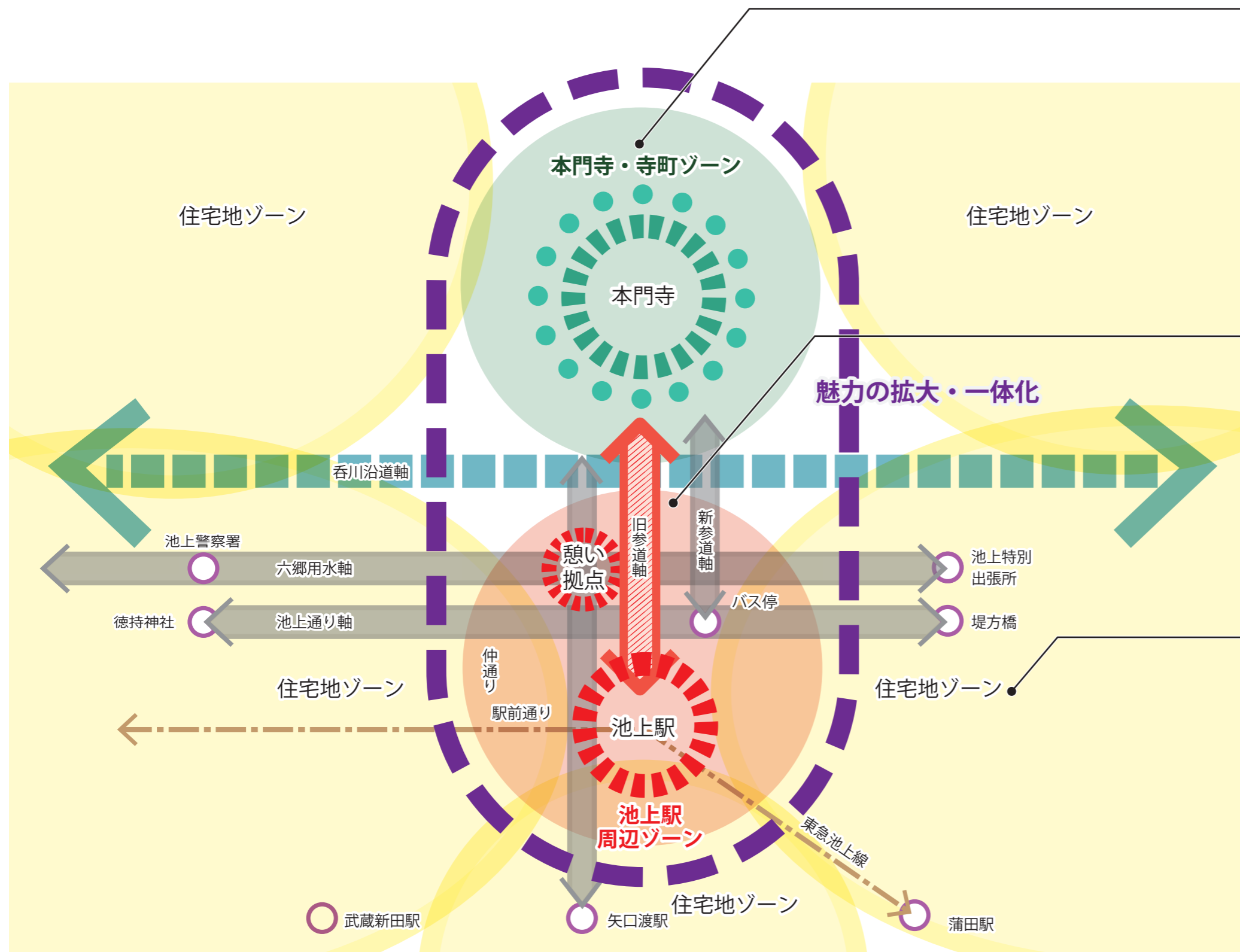
- 6-1 池上駅前、まちの起終点として各軸とつながる接点部分を効果的に演出する。
- 6-2 池上らしさを感じる通り名をつけ、通り名サイン・案内板などの設置や認知度を高める取り組みを進め、まちのどこにいても本門寺の位置を認識できるようにする。



6. 目指すまちの構造

【6-1 まちの構造図】

【6-2 ゾーンの形成目標】



【本門寺・寺町ゾーンの目標】

**誰もがオススメしたくなる
凛とした寺町情緒に癒されるゾーン**

本門寺を中心とした寺社仏閣の多い地域です。緑が豊かでその歴史性と交わって情緒のあるゾーンとなっています。その特性から、境内等オープン空間の活用、寺町らしい景観形成、池上駅との回遊性の強化を図り「誰もがオススメしたくなる凛とした寺町情緒に癒されるゾーン」を目指します。

【池上駅周辺ゾーンの目標】

**池上の玄関口として楽しく快適な、
来街者へのホスピタリティあふれるゾーン**

池上駅を中心にたくさんの商店会が存在し、池上の玄関口となる地域です。その特性から、まちの案内の強化、本門寺を活かした商店街の更なる特徴づけを図り「楽しく快適な、来街者へのホスピタリティあふれる池上の玄関口」を目指します。

【住宅地ゾーンの目標】

**幅広い世代がまちに親しみをもち、
交流がはかれる居住地ゾーン**

地域ごとに居住者の特性があり、池上の利便性から近年では新しい住民が増えてきています。その特性から、地域住民の交流を育む憩いの場づくり、分かりやすくゆとりある歩行者環境の整備を図り「幅広い世代がまちに親しみをもち、交流が図れる居住地」を目指します。また、住宅地ゾーンに近接する鉄道各駅や周辺地域との連携・交流をさらに促進するため、地区内及び周辺地域との安全で快適な交通移動環境の確保を目指します。



7. 軸別の具体的方策や取り組みイメージ

【7-1 旧参道軸の取組イメージ】

【まちでの過ごし方のイメージ】



旧参道軸の目標： 歴史的な趣を活かし、池上駅と本門寺を繋ぐ情緒的な賑わいを醸し出す通りを形成する。

【まちの作り方のアイデア】

お寺の門のように中が見える・自由に行き来できるショップファサード。

四季や祭礼・イベントに合わせた仮設のお休み処。

本門寺等と商店街をつなぐしかけをつくる。

通りの連続性とおもてなしの機運を高めるアイテム。

趣のある看板など。

名物に仕掛けが?!

みんな楽しもうだね。

この展示、面白いな。

ここで休みましょうか。

名物の歴史や文脈を感じる様々なイベントや出会いをつくる。

担い手の意識を高め、景観づくりを先導するサインの設置。

外壁の一部を板塀にしてお寺の外壁との連続性をもたせる。

歩行空間に顔を向け、店内のにぎわいを拡張する店構え。

【7-2 憩い拠点 呑川沿道軸の取組イメージ】

【まちの使い方のキーワード】



憩い拠点の目標： 歴史を紡ぎ新たな文化を生み出すまちの結節点としての役割を担う。

呑川沿道軸の目標： 木陰とせせらぎを求め、自然と人が集まる通りを形成する。

【まちの作り方のアイデア】

呑川の水辺環境を魅力的にする。

呑川沿いの緑環境の連続性を確保する。

池上地区の回遊軸として活用する。

橋梁等のデザイン、修景等を検討する。

呑川沿いで憩い空間を確保する。

呑川に架かる橋・欄干等及び河川上部空間を活用した憩い空間の確保について検討する。

呑川沿いの安全で快適な歩行空間を確保する。

池上小側は、棧敷クッションを作って、一部をお花見席に。

呑川沿いは、歩行者や自転車にやさしい遊歩道に。

文化センターの拠点性を高める。

図書館跡地の有効活用を検討する。

文化センター周辺での憩いの空間を確保する。

六郷用水を守り活かす。

【7-3 本門寺拠点 新参道軸の取組イメージ】

【まちの使い方のキーワード】



本門寺拠点の目標： 池上を代表する名所としての風格を大切に、みんなで守り・育み・受け継ぐ拠点とする。

新参道軸の目標： 本門寺の玄関口としての顔づくりと来街者をもてなす池上の心意気を出させる。

【まちの作り方のアイデア】

寺町の風格ある景観を意識する。

寺町文化をまちづくりに活かす。

寺町の各寺社が個々に境内等のライトアップを行う地域連動イベントなど、寺町の特性を活かす。

本門寺への眺望を確保する。

池上通り～呑川沿道の住宅地では、本門寺を見下ろすような建物は避ける。

本門寺へのアクセスとしての顔をつくる。

新参道入口やバス停付近では、まちの「入口」としてのしつらえとして、案内板や本門寺へのサインの設置、交差点に面する建築物のデザイン配慮など、来街者を迎え入れる端正な顔づくりを検討する。

風格ある街並み景観づくりに配慮する。

積極的に緑化によるおもてなし空間を創出する。

＜まちの緑効果＞

リフレッシュ効果 景観形成効果 防音効果 温度調節効果

緑視率を高め、住む人、訪れる人、働く人たちの居場所として、心地よい、憩える空間を形成する。

＜本門寺お会式のイメージ図＞

新参道軸の道路整備事業（電線類地中化等）によるスッキリとした沿道景観を創出する。

電柱が無いと広々として見えるね！

窓から観る万灯行列もいもんだなあ。

本門寺のベンチで本門寺での地蔵を拝見しよう！

新参道の沿道空間を有効に活かした歩行者天国の実施や、沿道景観に彩りを添える桜などの樹木の配置を検討する。